学校番号	403

平成 31 年度　地理歴史科

教科	地理歴史	科目	世界史Ａ	単位数	２単位	年次	２年次
使用教科書	現代の世界史　（山川出版）						
副教材等	アカデミア世界史　（浜島書店）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

歴史的事項を臨場感あふれるように体感させる。
歴史事象がなぜ起こり、その結果どうなったかを考える力を育てる。
歴史的事象を知ったことにより現代社会で起こっているさまざまな出来事の解決方法などを考える力をはぐくむ。

2　学習の到達目標

近世以前の諸地域世界の特質を理解した上で,大航海時代を背景にアジア世界とヨーロッパ世界が接触や交流・進出を深め，世界が一体化に向かい始める状況を概略的に把握させる。また，近現代史以降一体化がさらに進んでゆく状況を日本と関連づけながら歴史的に理解させ,あわせて人類の今後の課題について具体的に考察させる。

3　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c:資料活用の技能	d:知識・理解
観点の趣旨	近現代史を中心とする世界の歴史に対する関心を高め、意欲的に課題を追求するとともに国際社会に主体的に生き平和で民主的な国際社会実現に向けて参加・協力する態度を身につける。	現代世界の政治・経済などにかかわる諸課題を歴史的観点から考察し、広い視野にたって多面的に考察し、社会の変化やいろいろな考え方を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。	世界の歴史に関する資料を収集し、有用で効果的な情報を選び、読み取ったり図表などにまとめたりしている。	世界の歴史に関する基本的な事項を日本史や地理と関連付けて理解し、多面的に知識を身につけている。
評価方法	ワークシート	定期考査 ワークシート	定期考査 ワークシート	定期考査 ワークシート

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
1	第Ⅰ部一体化する世界	第1章　諸地域世界の特質 ①　東アジア世界 ②　南アジア・東南アジア世界 ③　西アジア世界 ④　ヨーロッパ世界 ⑤　陸と海の交流 第２章 アジア諸国の繁栄 ①　モンゴル帝国の形成と解体 ②　東アジア・東南アジア諸地域の変動と再編」 ③　近世の日本と世界 ④　イスラーム世界の再編成 第３章 世界の一体化とヨーロッパ ①　大航海時代と世界の一体化の始まり ②　16 世紀の西ヨーロッパ ③　17～18 世紀の西ヨーロッパ ④　16～18 世紀の東ヨーロッパ ⑥　西欧を中心とする世界の一体化	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	第１章 a:世界４大文明に代表される諸文明の特質とそれらの交流について関心を高め、自ら意欲的に追求しようとしている b:諸文明の交流の特徴を見つけ、文化の変化などを考察しその過程や結果を適切に表現している。 c:必要な資料を集め、それを読み取ったり図表にまとめたりしている。 d:諸文明の交流を理解し、その知識を身につけている。 第２章 ａ：モンゴルを中心に世界の一体化の始まりが起こることを理解しようとしている。 ｂ：西アジアや南アジアでイスラーム教文化が成熟したことを多面的に考察しその結果を適切に表現している。 ｃ：東西文化の交流などの資料を積極的に収集し、自ら図表にまとめようとしている。 ｄ：アジア・ヨーロッパの当時の概観を理解できている。 第３章 ａ：大航海時代におけるヨーロッパの海外進出、ルネサンスと宗教改革の動きなどに高い関心を示し意欲的に追求しようとしている。 ｂ：設定された時代の特質を見つけ、ヨーロッパの発展に関連付けて考察し、その結果を適切に表現している。 ｃ：大航海時代の世界地図を自ら書きとめヨーロッパ世界の飛躍的な拡大を ｄ：１７世紀のヨーロッパの危機を例に取り現代に置き換え理解しようとしている。	定期考査 ワークシート 定期考査 ワークシート 定期考査 ワークシート

2	第Ⅱ部　現代世界と日本	第４章　近代の欧米社会 ①　イギリス産業革命 ②　アメリカ独立革命 ③　フランス革命 ④　反動と改革 ⑤　ナショナリズムの時代 ⑦　南北アメリカの道 第５章　ヨーロッパの進出とアジア ①　バルカン・西アジア社会の動き ②　インド・東南アジアの植民地化 ③　東アジアの動揺 ④　東アジア国際秩序の変容 第6章　帝国主義とアジアの民族運動 ①　欧米による世界の植民地化 ②　民族運動と列強の対立	 ○ ○ ○ ○	 ○ ○ ○ 	 ○ ○ ○ ○ ○ ○	 ○ ○ 	a：産業革命においては、様々な技術の発達に伴う生産力の向上、イギリス国家の変貌による各地域への影響などに関心を示す。 b：産業革命の進展に伴う世界諸地域の変貌を見つめ、１９世紀の世界の一体化と関連付けて考察しその過程や結果を適切に表現している。 c：アメリカの独立革命の地図を作成したり、独立革命の影響下でフランス革命が起きたことを図表にしようとする。 d：産業革命・アメリカ独立革命・フランス革命がそれぞれ単独で起こったのではなく、影響しあっていることを理解し、その知識やそれぞれのその後の影響を知識として身につけている。 第５章 ａ：ヨーロッパのアジア進出によってインド・東南アジア・が植民地化される過程に関心を持ち主体的に問題点を追求する態度をやしなう。 ｂ：現代に至るアジアやアフリカ諸地域の問題点をこの時代から考察し問題点解決の方法を思考する。 ｃ：インドやアフリカがヨーロッパの植民地になっていく過程を図に書いたり中国とイギリスの関係を歴史年表にまとめる。 ｄ：アジア・アフリカ諸地域とヨーロッパの関係を個々の事件を参照に理解している。 ６章 ａ・ｂ：ｃ・ｄ共通 帝国主義によるアジア・アフリカの植民地化を考察・理解する。	定期考査 ワークシート

3		第7章　二つの世界大戦 ① 第一次世界大戦とロシア革命 ② ヴェルサイユ体制と欧米諸国 ③ 民族主義の新展開 ④ 世界恐慌とファシズム ⑤ 第二次世界大戦 第8章　冷戦の時代 ① 冷戦の形成と第三世界の登場 ② 核戦争の危機 ③ 多極化と緊張緩和 ④ 冷戦の変質 ⑤ 冷戦の終焉 ⑥ 冷戦下の日本 第 9 章　グローバル化する世界 ① グローバル化の進展 ② 変貌する世界の諸地域 ③ 日本の現状と未来への模索	 ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	 ○ ○ ○ ○ ○	 ○ ○ ○ ○	 ○ ○ ○ ○ ○	第７章 a:20 世紀初頭から中盤までに人類は２度の世界大戦を体験する。その原因や影響さらに平和の大切さに関する関心を高め、平和を意欲的に追求する。 b:戦争に関する個々の事象を考察し、平和の大切さを多面的多角的に考察し、その過程や結果を公正に判断している。 c:両大戦に関する資料を収集し一般国民までも巻き込んだ総力戦としての戦争であることを読み取り、地図や図表にまとめたりする。 d:両大戦の悲惨さを知識として持つとともに平和の大切さなどと関連付けて理解している。 第８章 ａ・ｂ・ｃ・ｄ共通 第二次世界大戦を機に西ヨーロッパの政治的･経済的地方が低下したこと。代わって合衆国･ソ連の２国が圧倒的に発言力を持ったこと。合衆国陣営とソ連陣営による冷戦の始まり、核戦争の危機などを考察し、解決方法を考え判断力理解力を深める。 ９章 ａ・ｂ・ｃ・ｄ共通 1980 年代以降を扱うのでまさに現代社会である。個々の事例を使ってなぜその現象が起こったか、その解決方法などを多角的な観点から学ぶ	定期考査 ワークシート

※　表中の観点について　a:関心・意欲・態度　　b:思考・判断・表現
c:資料活用の技能　　d:知識・理解

※　年間指導計画（例）作成上の留意点

・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について〇を付けている。